

ミトヨノヒトコマ ハイライト

今年で4回目を迎えた映画制作スクール。中学生22人が、実際に活躍するプロの映画監督や脚本家から指導を受け、約1カ月間で「木苺の箱庭」「タブレットの秘密」の2本の映画を作り上げました。

映画制作の集大成となった8月29・30日の撮影の様子を、写真とともに振り返ります。



映画制作 スクール



脚本・監督担当からひとこと



ひと夏の成長を最高の仲間とともに

脚本・監督のどちらも、プロの人たちによる指導や仲間の支えがあったからこそ、やり遂げることができ感謝しています。また、これまで苦手と感じていた、意見を伝えることや周りを見て行動することなどが、映画制作スクールの参加を機に得意なことになりました。この期間で自分の成長を感じ、最高の仲間にも出会えたので、心から参加してよかったと思います。

(写真:右) 三谷 優季さん(三野津中学校3年)

映画作りも関係作りも“熱く”

学年に関係なく、一人ひとりが同じ立場でたくさん意見を出し合った結果、みんなが納得のいく映画を作ることができました。自分の意見も、相手の意見も大事にし、何でも話し合える、温かい関係がとても好きでした。映画制作スクールで身に付けた、人前で話す力やコミュニケーション力、人との関わり方を今後の学校生活や人生に生かしていきたいです。



(写真:左) 藤井 檜向さん(詫間中学校2年)

- ①監督がキャストへ演技の指導をします
- ②表情を作り、本番に挑みます
- ③プロのカメラマンから撮影方法を学びます
- ④俳優の高橋洋さんがゲスト参加
- ⑤美術担当が小物を揃えます
- ⑥山下市長もキャストとして参加

11月公開予定!!



Ayami Furuichi

三野町出身。岡山大学を卒業後は、大阪や神戸の企業に勤務し、自治体や中小企業のWEB・広告制作などを担当。趣味は、実家の畑で行う野菜作りとネコの散歩。今の夢は、三豊市が農水産物の豊かな市だと多くの人に認知してもらうこと。

活動の最新情報はコチラでチェック!
f「香川県三豊市地域おこし協力隊」で検索

都会から地元に戻ってきたとき、穏やかな空気に「平和やなあ」と感じた古市さん。「地元で何かに感動・驚き・熱中できるものがあれば地元での生活をより楽しめるものには違いない」と思ったそうです。「そのきっかけを作るのは、企画や制作を通じた人とのコミュニケーションであり、私の仕事です」と力強く語ってくれました。任期中に、「三豊の手土産をうどんでではなく果物にした」とも話す古市さん。今までにないPR活動に農水産物の発展が期待されます。

わってきました。「地元の生産者の皆さんと協力しながら、前職の経験を生かしてSNSなどを活用した情報発信やマーケティングに取り組みたい」と意気込みを話してくれました。「みとよのみ」の充実にも力を入れる予定で、「素敵なホームページやSNSがあるので、それをさらに素晴らしいものにしていきたい」と目を輝かせていました。

たくさんの人に農水産物を通して心動かされるきっかけを作りたい

農水産物をPR! 地域おこし協力隊に 古市 綾美さん

農水産物などの販売促進や農畜水産業の振興に取り組み地域おこし協力隊として、8月から新たに三野町出身の古市綾美さんが着任しました。農業者の高齢化や後継者などの担い手不足

といった課題がある三豊市。そこで、さまざまな農水産物を特徴的な地域の魅力として高付加価値を与え、全国に売り出すことで、課題解決に向けた活動を行います。

「みとよのみ」SNSで三豊の食材情報発信中!
○Facebook、Instagramで「みとよのみ」を検索!!
○「みとよのみ」ホームページはこちら



▲配属先の農林水産課では、三豊の魅力を発信するための施策を計画中



▲「三豊市の特産品をたくさんの人に届けてください」と、市長から激励を受けました

▶問い合わせ 農林水産課 ☎73-3040